

# ロシア語教授法の側面からみたリーディング 指導の構成と内容について

山 田 隆

## I はじめに

リーディングの必要は、語学学習にどのような教授法を用いようとも、また言語運用のどの過程にあらうとも、等しくその価値が認められている。文法訳読方式 (Grammar-translation method)<sup>※1</sup> の考え方では、文法書と講読用テキストがいわばセットであり、これが重要な教材をなしている。文法訳読方式は、古典ギリシャ・ラテン語のような死語を学習する過程の中から発達し、確立した方法であろうが、この学習法の利点として、ことばの分析能力を養い、言語モデルの典型化を促し、そして獲得した知識体系の普遍性が高いと評価されている。

一方、口頭表現重視型教授法 (audiolingual method)<sup>※2</sup> では、聞く・話すという口頭表現能力の習得を重視し、ドリル練習による定着作業を重ねていく。いわゆる4つの言語能力の発達順位は、先ず聞く・話す、次に読む・書くに移行していく。これは1940年代から普及しはじめた方法であり、外国人との接触ですぐにコミュニケーションできるという実用目的を満足させ、口頭表現能力の定着に優れているとされる。

さて口頭運用能力重視の教授法でも、優先度は高くないが、読み書きの能力向上にも注意を払っている。一般に外国語の生活から日本語の生活に戻り、そ

<sup>※1</sup> 『英語教授法辞典』小川芳男他著、三省堂、1982年

<sup>※2</sup> Б.А. Глухов и А.Н. Шукин, “Термины методики преподавания русского языка как иностранного”, Русский язык, Москва, 1993, стр.28-31

の後特別の手段を講じない限り、5年ほどでかつ達な運用能力が失われるという。それをくい止める、有効な方法として読書の効用がしばしば話題にされる。

リーディングに注目している教授法として、他に、視聴覚教育法(Audiovisual method)が挙げられる。この教授法の基礎は1950年代にフランスで築かれ、その後ロシアでは1970年代に隆盛を迎える。名称の通り、録音教材やイラスト、ビデオなどの視聴覚に訴える手段や機器を語学学習に活用する。文法項目は話題に即して最低限度にとどめられ、その際、学習者の母国語で説明がなされたり、母語の助けを借りることを許容している。効率的な理解を図るために図や表も活用される。この教授法では生活場面や旅行が筋書きとして好んで取りあげられることが多い。

リーディングの材料については考慮すべき事項があり、プログラムの中心課題となる。

- 1 学習段階に応じた教材の配当がなされている
- 2 語い規制がある

教科書の中に盛り込まれている読み物については、学習段階に応じているとみなされる。また読みの現場を想定する場合には、通常、次のように分類することが可能である。

- 1 教室内での速読 (rapid reading)
- 2 教室外の多読 (extensive reading) であり、補助的な読み物に位置づけられる
- 3 課外読み物 (extracurricular reading)

同時に、次のような配慮も必要である。

- 1 内容が学習者の知的水準、興味、関心に適している
- 2 語い規制が必要である。既知の語いと未知の語い数の比率は、おおむね50対1が望ましいとされる
- 3 文法事項の統制が必要である
- 4 文体の単純化が図られている
- 5 読み物としてまとまりを見せている

本稿で想定しているのは、少なくともつぎのような学習状況である。

- 1 外国語の習得が独学ではなく、教室や講座など集団による授業運営がなされている。
- 2 学習者の文法知識が不完全で、教師の語学的なコメントが必要とされる。
- 3 目下の学習課題が、文法知識の習得に加えて、語いの有機的な拡充が求められている。

すなわち学習者の学習歴がまだ浅く、文法学習と併行して、語いの拡充を効果的に図ろうとするときの、教師側から見たテキストの分析と両者の関連づけについての提言である。

## II コメントの分類と内容

外国語講読をおこなう場合、教師は以下のようなコメントを学習者に与えることができる。

学習内容の側面から

### 1 語学的な側面のコメント

主に音声学、形態論、統語論に関係する知識と訓練のことである。たとえば、音声学的な側面では、正しい発音と自然な朗読をめざすことや語学のレベルにみあった朗読の速度を会得することが挙げられる。また形態論のレベルでは、語形変化の正確な知識がぜひとも必要である。その他、語順や語法に関するアドバイスが統語論のレベルで、そして最後に文体論のコメントまでつけ加えられたら申し分がない。

この分野に対応する練習問題を、ロシア語では *упражнение* と呼んでいる。

### 2 内容の理解にかかわるコメント

テキストの内容や背景説明、学習者の理解を助けたり、反応を確かめるレベルのコメントで、この分野に対応する練習問題を、ロシア語では *задание* と呼んでいる。

コメントや課題を与える時期の側面からは次のような段階を考えることができる。

- 1 リーディングに先立つ時期  
未読段階であるから、語学的なコメントが中心となる。
- 2 リーディングの最中  
追加的な語学上の指示を与えるとともに、内容理解を助け、理解度を測定するような課題に移っていく段階である。
- 3 リーディングを終えた時期  
内容理解を測定する課題やその後のリーディングを導くような指導が中心的な段階である。

### III 分析例

以上のことを踏まえて、2種類の学習参考書を比較検討してみよう。ひとつは『近代ロシア 革命への道程』カルポーヴィチ講義録<sup>注3</sup>であり、もうひとつは『ロシア語を話しましょう』ハヴローニナ著<sup>注4</sup>である。この2冊を比較の対象に選定した理由は、個人的な経験則からほぼ同程度の難易度と思われたからである。その他、機械計算の結果でテキスト容量がほぼ同じ大きさ、使用語形数もほぼ同じ分量というデータに後押しされている。ただしロシア語のように、語尾変化をもつことばでは文中で果たす機能によって語尾に異形が生じるので、使用語形数は、使用語い数とは異なることに注意せねばならない。

両者の数量データは以下の通りである。

	テキスト容量	総単語数	使用語形数
近代ロシア	40,332 文字	9,076 語	2,275 語形
話しましょう	36,633	8,638	2,386

<sup>注3</sup> Михаил М. Карпович, “Обзор русской истории, от начала девятнадцатого века до революции”, 早坂真理、加藤史朗編、白水社、1990年

<sup>注4</sup> С.А. Хавронина, “Говорите по-русски”, Русский язык, 1978, 6-е издание

ロシア語教授法の側面からみたリーディング指導の構成と内容について（山田 隆）

語学的な側面を比べてみると、両者のちがいは随所に見られる。たとえば『近代ロシア』では動詞の過去時制のみが使われていると極言しても差し支えないほどであり、形動詞短語尾形を使った受け身の構文が至るところで出現する。中性名詞と中性の代名詞が多いことも指摘できる。一方の『ロシア語を話しましょう』では、動詞時制はまんべんなく使われているが、形動詞や副動詞、息の長い複文のような、いわゆる技巧的な構文は少ない。人称代名詞では1人称が単数、複数形ともに目立つという特徴がある。したがって、語学的なコメントを与えるときにはそうした文法上の特徴を考慮した上で、必要な練習なり、または予習に備えて必要な指摘を行なうのが、効果的なリーディングを導くと言える。

それでは語学的な側面からきわだつ特徴を列挙することにしよう。まず『近代ロシア』の資料から述べる。

### 1) 動詞の時制

- ・歴史的な法則や事実を述べるときに現在形が使われているが、出現頻度が極端に少ない。
- ・未来時制の使用は、見られない。
- ・過去時制の使用が、圧倒多数にのぼる。

### 2) 命令形が1例にすぎない

### 3) 主語の人称

- ・1人称は筆者のコメントを入れるときに使用している。したがって単数と複数の区別は意味をもたない。いわゆる「筆者の1人称」と呼ばれる用法に限られている。
- ・2人称の使用例が皆無である。
- ・3人称のうち、特に中性形が通常、期待される数値に比べて多い。前の文脈を漠然と受ける代名詞 *это* や中性名詞を受ける *оно* の使用が顕著である。

4) 名詞

- ・中性名詞の多用が挙げられる。それを受けるために代名詞の ОНО、ЭТО の頻度が高い。
- ・専門用語と固有名詞が多い。その他に抽象名詞が目立つ。

5) 被動形動詞過去短語尾形が、多く使われている

一方『ロシア語を話しましょう』の文法分析では、以下の特徴を挙げることができる。

1) 動詞の時制

- ・3時制すべてにわたって使用されている。

2) 主語の人称

- ・自分に関する事柄を自ら物語ったり、周囲の人たちを代表して語るスタイルをとるために、1人称がもっとも多い。
- ・単数中性形を除いて、すべての人称がまんべんなくそろっている。

3) 名詞

- ・モリス<sup>註5</sup>のいう第1類の語い (Class I words) がめだち、いわゆる基礎語いのリストに含まれるものが多い。彼は基礎語いを3つのグループに分けている。第1類に事物語、これは指し示すことのできる一般語を、それから第2類に、抽象語を設定する。そして第3に機能語、これは助詞や前置詞をさし、その語自体は明確な意味をもたないが、自立語と結びつくことによって相互の関係を明確にする働きをもつ。

---

<sup>註5</sup> Isaac Morris, The art of Teaching English as a Living Language, Macmillian, London, 1959

『英語教授法辞典』小川芳男他著、三省堂、1982年、55頁 (Basic vocabulary) を参照。

分析例その1 人称代名詞主格形の使用環境について

人称代名詞（主格形）の出現頻度一覧表

		単 数	複 数
1 人 称		5	3
		126	90
2 人 称		0	0
		6	14
3 人 称	男 性	16	14 10
		43	
	女 性	13	
		14	
	中 性	9	
		0	

注) セルの上段には『近代ロシア』、下段に『ロシア語を話しましょう』の数値を挙げている。

文法書では、すべての人称代名詞が対等に文法体系をなしていることを前提としているのであるが、実際には頻度に偏りがあることは周知の事実である。その点で『近代ロシア』では3人称単数中性形の出現数が他のテキストに較べて高く、これは注目に値する。

1人称代名詞の使用状況では2つのテキストではまったく異なる。『近代ロシア』では使用頻度がそもそも少ないことに加え、その用途が特定の機能に限定されている。そこではいわゆる「著者のwe」といわれる用法が使われていて、単数形と複数形の違いが文体的技巧によって解消されている。少ないので用例をすべて引用してみよう。

(1人称単数形の用例)

- 1 Как **я** уже указал, крепостное право отменено не было.
- 2 Воинская повинность, как **я** уже сказал, тоже распространилась на все классы населения.

- 3 С одной стороны, власть, как **Я** уже указывал, не шла достаточно далеко в своих реформах.
- 4 <...> политический, экономический, культурный и социальный прогресс, о котором **Я** говорил выше, когда он был еще в своей первоначальной студии.
- 5 <...> которой суждено было сыграть большую роль в дальнейшем развитии событий. **Я** имею в виду марксизм.

(1 人称複数形の用例)

- 1 Принцип самоуправления, как **МЫ** видели, был ограничен только местными и притом неполитическими делами.
- 2 Одновременно возродилось и народничество, потерпевшее, как **МЫ** видели, поражение в семидесятых и восьмидесятых годах.
- 3 **МЫ** стоим здесь перед парадоксом необычайно интенсивной работы политической мысли в самое реакционное царствование девятнадцатого века.

他方、『ロシア語話しましょう』では語り手のパーヴェルがいて、妻のマリーナ、そして弟のニコライや両親がひんぱんに顔をのぞかせる。全体を通じてナレーターを勤めるパーヴェル自身が1人称の発言であり、夫婦のことに言及する場合、または親兄弟とのことを話題にするときには、1人称複数形が多用される。このことがそのまま1人称の単数形と複数形の頻度に直結している。いくつか典型的な段落を引用してみよう。

1 人称単数形の使用例。出典は、第1課「自分について」の冒頭部分。

**Я** родился в Москве и всю жизнь живу здесь. Когда мне было семь лет, я пошел в школу. С детства **Я** интересовался химией, поэтому после окончания школы **Я** поступил в университет на химический факультет.



ロシア語教授法の側面からみたリーディング指導の構成と内容について (山田 隆)

Пять лет назад **Я** окончил университет и поступил работать на завод. **Я** химик, работаю в лаборатории. В прошлом году **Я** женился.

また第4課「私の一日」でも自分のことが語られるので、1人称の代名詞が続出する。

По специальности **Я** инженер-химик. **Я** работаю на одном из крупнейших заводов Москвы. <...> **Я** встаю в половине седьмого, делаю утреннюю зарядку. После завтрака, четверть восьмого, **Я** одеваюсь, выхожу из дома и иду на автобусную остановку. Через полчаса, то есть без четверти восемь, я уже на заводе. Обычно **Я** прихожу в лабораторию без десяти минут восемь, то есть за десять минут до начала работы.

Во время обеденного перерыва, с двенадцати до часу, **Я** успеваю пообедать в столовой и немного отдохнуть.

## 分析例その2 連辞として用いられる動詞 **БЫТЬ** 過去形の使用傾向について

まずこの動詞に後続する成分を分類してみよう。ここではこの動詞がどのような構文の一部として機能しているのかを、調査した。動詞の意味分類は辞書と一致していないことに注意されたい。

[第1類] 主格主語の存在を表わす。

[第2類] 連辞として名詞的述語成分を構成し、名詞や形容詞、形容詞短語尾形を接続する。

[第3類] 連辞の働きをして形動詞短語尾形を接続する。受け身の構文を構成する。

[第4類] 無人称述語と結合して、無人称文を構成する。過去形では単数中性形にのみ現われる。

男性単数過去形	第1類	第2類	第3類	第4類	小計
近代ロシア	1	16	16	—	33
話しましょう	1	6	1	—	8

女性単数過去形	第1類	第2類	第3類	第4類	小計
近代ロシア	4	13	12	—	29
話しましょう	5	1	0	—	6

中性単数過去形	第1類	第2類	第3類	第4類	小計
近代ロシア	3	16	12	9	48
話しましょう	0	1	1	6	8

複数過去形	第1類	第2類	第3類	第4類	小計
近代ロシア	2	10	16	—	28
話しましょう	2	1	0	—	3

小計	第1類	第2類	第3類	第4類	合計
近代ロシア	10	55	56	9	130
話しましょう	8	9	2	6	25

## 『近代ロシア』の出現例

## 第1類

1. Она прервала тот политический, экономический, культурный и социальный прогресс, о котором я говорил выше, когда он был еще в своей первоначальной студии.
2. При обоих императорах в правительственной политике по отношению к образованию была некоторая двойственность.

## 第2類

3. На практике, Александр Первый далеко не был таким либералом, каким его, особенно в первой половине его царствования, обычно считали.
4. По своему характеру Александр Третий был похож гораздо больше на

своего деда Николая Первого, чем на своего отца.

第3類

5. Новый суд был построен на принципах западноевропейского суда.
6. Толчок к этому пробуждению был дан событиями наполеоновской эпохи.

第4類

7. <...> а в начале двадцатого века в России было уже около трех миллионов промышленных рабочих.
8. У него не было ни дарований и ума Александра Первого ни твердой вили Николая Первого.

『ロシア語を話しましょう』の出現例

第1類

1. — Ты знаешь, где я была сегодня?— спросила меня Марина.
2. Марина никогда не была в высотном здании университета на Ленинских горах, и Николай обещал показать нам его.

第2類

3. С давних пор университет был центром науки и культуры.
4. Я был очень благодарен ему за это путешествие.

第3類

5. Московский государственный университет был открыт 27 апреля 1755 года.
6. В 1953 году здесь было построено огромное здание Московского государственного университета.

## 第4類

7. Давно тебя не было видно в Москве.
8. В Дудинке мне надо было ехать на аэродром, а ему-на речной вокзал.

## IV 結びに

すでに学習した表現や文法項目の確認をおこない、それらの知識の定着を図ることを目的とするリーディングには解決すべき課題がある。語学的な見地からはひとつに、テキストを読むために必要な文法知識の整理である。もう一つとして、語いの規制を挙げることができる。この小論では文法の規制をとりあげてみた。指導や注釈をおこなうにあたって、教師はテキストの特徴を周知して効率的な準備の便宜を図る。

語学的な注釈をつけるための素材を提供する手段はいくつもあるが、このたび筆者が採用したのは対象となるテキストを電子化して、必要な処理なり、検索をおこなってデータを得ることだった。現在のコンピュータ技術を使って、ある程度まで満足のいく分析が可能だと判断している。

語い規制については他の論文<sup>#6</sup>で発表したことがあるのでそれらを参照されたい。ここでは使用語いの一覧表を巻末に添付する必要があることを申し添えておこう。テキストの選択は、すでに学習している語いに沿っているとは限らない。

もうひとつ。たいていのテキストは、そのテキストに特有な固有名詞や専門的な用語を使用していて他のテキストとの共通性が低い。いわゆる基礎語いのリストだけでは、テキスト全体の語いをカバーしきれない。使用語いの補助リストが大切であり、このリストがその他のテキストと区別するいわばマーカーの働きを果たすのである。<sup>#7</sup>

<sup>#6</sup> Содержание и структура словаря русского языка в лингводидактическом аспекте его рассмотрения, 『文化と言語』1996年4月

ロシア語教授法の側面からみたリーディング指導の構成と内容について（山田 隆）

したがってリーディングを始めるにあたって、このリストを学習者に明示して、十分な予習に備えることが、学習上とくに大切と言わざるをえない。

（本稿は1997年度研究助成費による研究成果の一部である）

---

<sup>※7</sup> ロシア語テキストの評価に関する考察、『文化と言語』1998年2月